

# History 新野左馬助親矩

キラリを再発見

特別編

# No. 21

## 寿桂尼と新野池成新田

井伊家を必死に守ろうとしたのが「おんな城主 井伊直虎」ならば、「死しても今川の守護たらん」として、今川館の鬼門の方角にあたる龍雲寺（静岡市葵区沓谷）に埋葬されたのが、「女戦国大名 寿桂尼」である。寿桂尼は、大永6年（1526年）に夫氏親の病死後、長男氏輝が16歳になるまでの2年間、自身の印判を用いて公的文書を発給し、国務を取り仕切ったとされる。その寿桂尼の寄進状（1526年）「新野池成新田百町の事」は、義忠の菩提寺 昌桂寺（菊川市：現正林寺）に、新野池を開発した土地（池成新田）百町（約100ヘクタール）を寄進したものである。

新野池は、貞和3年（1347年）の高松神社文書に「干上がり」と記載されており、さらに氏親の代（1500年頃）には、新野池の新田開発が百町に達したと思われる。その後、高天神の戦乱で新田は荒廃したが、大石宗兵衛久末親子により新野池の排水路工事が行われ、慶長10年（1605年）には本高1450石、新高360石の新田の開発となった。

照会 社会教育課 ☎0537-298735



▲寿桂尼墓所（手前が寿桂尼の五輪塔）



▲寿桂尼画像（正林寺所蔵）

寿桂尼  
生年未詳～永禄11年（1568年）  
戦国大名今川氏親の正室。  
藤原北家中御門家（公家）の出自。  
子に今川氏輝、義元。  
今川氏親、氏輝、義元、氏真の  
4代にわたって今川氏の政務を  
補佐し「尼御台」と呼ばれた。

大河ドラマ「おんな城主 直虎」  
応援プロジェクト



市は原子力に対する正しい知識と理解を深めてもらうと、「こども発電施設等見学会」を8月10日に開催しました。

この見学会は、平成16年度から毎年開催しており、参加者は原子力発電と火力、水力発電との発電方法や仕組みの違いについて学んでいます。

今年も、市内の小学4～6年生とその保護者、中学生の計32人が参加し、三重県の「川越火力発電所」と「川越電力館テラ46」を見学しました。



▲説明を聞いてから発電所を見学

同発電所は、平成元年から稼働しているLNG※を燃料とした国内最大級の火力発電所で、併設された電力館は、エネルギーと生活の関係を体験しながら学べる展示館です。

発電所では、中央制御室やタービン建屋内を見学し、電力館では、発電所紹介パネルなどのさまざまな展示物に触れながら、エコやエネルギーについて楽しく学ぶことができました。

※LNG・・・液化天然ガス

# Atomic

暮らしと原子力

こども発電施設等見学会を開催